

# 福岡県移住者子弟留学生 第1回報告書（6月）

テーマ

「自分の出身国の事。

福岡に来てから今日までのこと。」

ブラジル福岡県人会  
シルバー 石井 ジエゴ

九州大学  
システム情報科学府

初めまして私の名前はシルバ・イシイ・ジエゴです。今年の福岡県移住者子弟留学生として四月一日にブラジルから福岡県に着きました、福岡に来るのは初めてで最初は色々と戸惑いましたが時間が経つのが早くすでに2か月が過ぎました。

この留学制度ではたくさんの人たちが私達県費留学生を手伝ってくれます、福岡国際交流センターと福岡移住子弟家族会の人々たちです。家族会の人達は私達の事をまるで親せきのように接してくれとても感動しました、さらに福岡で色々な経験を出来る様にたくさんの方に連れて行ってくださいました、例えば花見、アビスパ福岡と福岡ソフトバンクホークスの試合観戦、などの色々な場所に連れて行ってくださいました。特におどろいたことは交通機関がたくさんあり複雑で慣れるのに困りました。

母国のブラジルではサンパウロ州のサンパウロ市に住んでいました、去年までサンパウロテクノロジー大学でシステム開発と分析学んでおり、大学の授業でAI（人工知能）を少し習った時に興味を持ち日本でしっかりと学びたいと思い福岡県移住者子弟留学生に応募しましたそして無事合格し、今は九州大学のシステム情報科学府に通っています。

ブラジルではボランティア活動をしていました、私が通っていたボランティア団体は歯医者に通えない貧しい人々の為に10日間公立の学校を借りて歯の治療、歯の正しい磨き方など色々な活動がありました。そこでの活動は私の人生にとってとても良い経験で人々の役に立つ事をしたいと思いました。そして今は九州大学では人工知能の特に医療関係のシステム開発に興味をもち色々な人の為になる物を作りたいと考えています。

最初は学校に行くルートを知るのに苦労しましたが少しずつ慣れていき学校生活は楽しいです、幼い時に日本に住んでいたのも日本語はもともと話せました、しかし大人になってから日本に戻って来るのはとても不思議でどんなに言葉がしっかり伝わっても日常生活でたまに分からない事とかがあり、その都度私にとっては難題です。

私の家族構成は父親と母親そして姉がいます、両親の仕事の都合で幼い時に家族全員で日本に来ました、そして私は2歳から15歳まで日本で過ごし後にブラジルへ帰国しました。

私のルーツは母方の曾祖父が福岡出身でその関係でこのプログラムに応募できて日本に来ることができました、しかし曾祖父がブラジルに移住したのは1912年でそれ以来日本に残った親戚と一切連絡と取っておらず今は約100年くらい前の住所だけが解っておりそれを頼りに、もし日本に残った家族が誰かいるのであれば何とか会いたいと思っています。

私達福岡県移住者子弟留学生が日本に着いてから色々な困難もありましたが皆良き友達になり、ともに喜びと苦難を分かち合いより良い関係を築いていきます、やはり同じ留学で福岡に来ているので残り10カ月間もっとお互いを知り掛け替えのない関係になりたいです。

ブラジル福岡県人会  
池尻 明美 カリナ

九州大学薬学府

私の名前は池尻明美カリナです。25さいです。ブラジルのサンパウロ州サンパウロ市出身です。ブラジルの家族と一緒に住んでる人は親たちと姉です。姉の名前は池尻直美カレンで、3年前に県費留学生でした。この一年間、姉と同じ福岡の九州大学で同じ先生の研究室で薬学の勉強をします。両親は餃子と春巻きの生産会社のオーナーで、サンパウロで日本食をレストランに提供しています。

私の福岡の家族については父方の祖父母の一部です。祖母の家族にはじめてであった時は空港でした。そのあとは私のかんげいかいの時に会いました。祖父の福岡の家族と五月に会いました。自転車の店で会いました。この経験をととても満足させ、私のルーツについてもっと知ることができました。

日本に来る前にブラジルのカンピナス大学で薬学部を卒業しました。去年卒業して、六年で勉強しました。ラテンアメリカで最高の大学の1つとみなされています。それに2017年からことしの一月までジョンソン&ジョンソンで仕事をしました。私は医療情報学科でインターンとして働いていました。私はいつも日本に住みたいと思っていたし、私はいつも日本の伝統的な家庭で育ったので、私は日本に来てこのねがいをじつげんすることをけっしんしました。それいがいにこの1年間に色々なけいけんをしたり、そせんについてのしょうさいを学んだり、私の日本語をじょうたつしたり、薬学部でより多くのちしきを学んだり、文化についてのしょうさいを知るのが私のもくひょうです。

九州大学の薬学部で勉強して先生と他の研究生たちのみなさんはやさしいです。たくさん研究のことを聞いて、たまには分からないけどみんなはゆっくり教えてくれました。

今年の県費留学達はブラジル、ボリビア、アルゼンチン、ペルー、コロンビア、メキシコとアメリカから来ました。みんなにで会った時からみんなとすごしたのが楽しくて、ブラジルのことを思い出させてくれました。じっさい、みんなちがう国から来ました私達は文化的に似ていることについて気づきました。私たち県費留学生にとって本当にかいてきでしあわせな気分です。

今までは国際交流センターとりょうと家族会のみなさんはさいしょからしんせつな人でした。日本の生活のことやオリエンテーションなどを教えてくれました。花見に行ったりサッカーゲームの試合を見に行ったり歓迎会に参加したりそして誕生日を祝ってもらいました。ゴールデンウィークで多くの場所に行って、たくさん新しく忘れられない経験をすることができました！ソフトバンクホークスチームの野球の試合を初めて見ました。負けたけどすごく楽しみました。そ

れにどんたくパレードに他の留学生と一緒に参加しました。初めて浴衣を夏祭りの時に着ることができました。

福岡県副知事にお会いする機会がありました。家族会のみなさんも県費留学達を竹の子しゅうかくに誘ってくれました、それはひじょうにおもしろかったです。みなさんはしんせつで、私達のためにかんげいかいをひらき、あとはバーベキューでひろった竹の子を食べることができました。みなさんに感謝しています。

ブラジル福岡県人会

江藤 エンヒッケ イチロウ

九州大学  
システム情報科学府

はじめまして、私の名前は江藤一郎です。ブラジルのパラナ州から来ました。よろしくお願ひ致します。私の国にはすばらしい動植物があります。アマゾンの森は世界で一番大きい森です。

ブラジル料理はおいしくて安いです。国民的な料理はシュラスコやフェイジョアダと言う豆料理です。

ブラジルはとても大きな国です。それで色々な文化があります。パラナ州は色々な国の移民が来たので、イタリア、ドイツ、ポーランド、そしてウクライナの文化の影響を受けています。パラナ州の夏は暑くて雨が多いです。冬は寒くて、湿度が高いです。

ブラジルでは両親と住んでいます。父の名前は江藤アントニオ、母の名前は江藤レジーナです。うちには犬が一匹います。名前はハナです。私はパラナ連邦大学で電気工学を勉強しました。去年、2018年に卒業しました。私の趣味は読書、音楽を聴くこと、そして映画を見ることです。

私が福岡県移住者子弟留学生になりかったのは、私の家族のルーツを知りたいこと、日本語で勉強を深めたいこと、そして、日本の文化や生活様式を経験したいからです。

ブラジルから福岡に来てたくさんの経験をしました。現在、私は九州大学の伊都キャンパスで勉強しています。とても大きくてよい設備なので興味深いです。県費留学生はみんないい人達です。私は彼達ととても楽しい留学生活を送っています。

家族会のメンバーの人達のおもてなしにとても感動しました。私達を福岡市の観光スポットの案内、たけのこ取り、そして野球の試合に連れて行って下さいました。福岡市で人生で初めて野球の試合を見ました。とても面白かったです。幸い、ソフトバンクホークスは試合に勝ちました。5月、私は県費留学生達みんなでたけのこを取りに行きました。そして、家族会のメンバーが焼き肉、焼きそばやたけのこの料理を作して下さいました。

福岡県の副知事さんにお会いしました。最初は緊張しましたが、副知事さんが親切な方だと気づいて、リラックスできました。

6月6日には、家族会のイベントで、私は祖母の妹さんに会いました。その親戚の名前は岡部トヨコさんです。とても嬉しかったです。

福岡は東京ほどグローバル化されていないため、英語を話せる人は少ないです。私の日本語のレベルは高くないので日本人と話すのはまだ少しふくざつです。しかし、これも日本語を勉強できるいいチャンスだと思います。プレートに書かれている漢字を読むときは、携帯電話の辞書を使います。

日本では食べ物の値段は高く、そして量も少なめなので、体重が少し減りました。

私もそうだと思いますが、私よりもっと内向的な日本人の多くの人達の性格と、言葉のバリアで、日本人の友達を作るのは少しふくざつですが、がんばります。

日本に来る前、私は福岡市は小さな町だと思っていました。しかし、実はとても発達した市なので驚きました。そして、伝統とモダンがとてもバランスがよく取れています。交通費は高いけれど、ICカードを使っていますので、便利です。バスの運転手さんはとてもていねい、そして「ありがとうございます」といつも言います。

私のこれからの目標は、日本語を上達すること、日本の文化を知り、新しい友達を作り、そして人として成長することです。

コロンビア福岡県人会  
坂本 サチ アンドレア

純真短期大学  
食物栄養学科

私の名前はサチ・メジナ・坂本です、日本に到着してからは母の姓だけを使っていて「坂本さち」と呼ばれています。なぜなら私の日本のパスポートにはそのように書いているからです。きっと日本人にとってはその方が呼びやすいからだと思います。

今年の2月に私は大学を卒業したばかりでボゴタのロザリオ大学で国際経営学を学びました、ボゴタはコロンビアの首都です。大学に通っていた時は一人暮らしをしていました。

私の好きな事は動物、スポーツ、そしてソーシャルワークが好きです。私が大学にいた時はラグビーをしていました、大学の女性グループに参加していました。当時とても楽しみ今でも良い思い出です。

また、私はさまざまな活動をする「SERES」というボランティアグループの一員でした。例えば土曜日に私たちは避難所に行き、貧しい人々にリサイクル素材を使って様々なものを作る方法を教え、あるいは日曜日には様々なアクティビティ、ゲーム、演劇を皆に披露したりします。この施設で暮らす子供たちが色々なアクティビティで学ぶためです。何故ならこの子供たちは家庭での家庭内暴力のせいで彼らは両親から離れて暮らさなければいけません。両親はもう彼らの世話をすることは出来ないで、彼らのような他の多くの子供たちと一緒に家に住んでいます。

私の親戚は私の母親のクラウディア、父親のオーランド、姉のサリ一、そして私の祖母マサコと祖父のラファエル、皆はサンティアゴ・デ・カリに住んでいます。コロンビアで3番目に人口が多い大都市です。

そして、大学を卒業後また両親と一緒に暮らし始めました。そして家では「TOBY」と言う名の犬を飼っています。私の姉は今は両親と一緒に暮らしていませんが彼女が飼っていた猫の「シャーロット」は私達が面倒を見ています。また、私は小さなウサギを飼っています。「トル」という名前はまだ1歳、私はトルがとても大好きです。

両親は私の祖母のマサコによって始められたケーキ屋さんを運営しています、そして今は母親が管理しています。お店ではいちご、キャラメル、チョコレート、桃などのように異なる味のケーキを作っています。



私の姉は私より2年年上で、彼女は医者です。私の祖母、マサコはコロンビア福岡県人会の会長を約7年間勤めました。祖母は彼女のルーツを本当に誇りに思っています。それは私が彼女のおかげで県費留学に応募した理由です。大学を卒業したばかりでちょうどよい時期でした。この留学で私のルーツ、日本の文化、日本での生活、文化を知り、日本語を学び、そして異なる都市へ旅行することでもっと知りたいです。このスカラシップは他の国との強い関係を築く機会、日本をもっと知る機会、そして新しい友達を作る機会を私たちに与えるととても良い制度です。私はここにいることがとても幸福だと感じています。

私は日本で好きなのは安全性です。誰かが何かを盗もうとしているか心配する事無くいつでもどこでも出歩く事ができるのは信じられないです。コロンビアのような国は本当に危険で、自分の私物に気を付けて歩かなければ行けません。例えば車を運転していても注意しなければいけません。女性が夜に出かけるのであれば、常に誰かと一緒にいないと危険です。

今月は電車の中で自分の携帯電話を忘れてしまいました。戻って来るか、あるいは誰かがそれを盗まないかどうかわからなかったのが本当に心配していましたが最終的には無事戻ってきました。日本人はやはり誠実です。しかしこれがコロンビアで起こった場合はおそらく二度と取り戻すことは出来ません。例えばバッグや服を盗まれたら戻って来ることは無いでしょう。私の携帯電話が帰ってきて、とても驚きました。そして本当に嬉しかったです。

日本の4月は春です。平均気温が14度です。春でもまだかなり寒いので私にとって気候の変化に慣れるのが大変でしたが、日本で最も美しい季節です。桜の花を見ながら花見が出来るからです。観光客にとってとても良い時期だと思います。桜が咲いていることで場所の印象がとても変わり綺麗になるからです。きっと地元の人々にとっても誇りに思っていることでしょう。

今年はできるだけ日本をより良く知りたいと思います、そして好きでなくても色々な種類の食べ物を試してみたいと思います。特に日本語の会話と読み書きを頑張ります私の祖母と話をし、コミュニケーションを取りたいからです。そしてコロンビアで他の日系人を教えたいです。

在ボリビア福岡県人会

岩瀬 ケービン 司

第一自動車大学校  
自動車整備士コース

はじめまして、岩瀬ケービン司と申します。

私はボリビアのサンタクルス市にあるサンフアン日本人移住地に住んでいます。日本人移住地はサンタクルス市から大体 138km 入ったところにあります。移住地では長崎、北海道、高知、熊本、福岡県民など、いろんな所から来てる人たちが住んでいます。移住地では今のところ 258 家族 731 人の人が暮らしています。

農業従事者がほとんどで、養鶏（国内ではかなりのシェアを占める）稲作（陸稲・水稲）・大豆・柑橘類・マカダミアナッツなどの多角的経営に力を入れています。他、日本料理店や日本製品など商業従事者も少数あります。1965 年 1 月 1 日、移住地内の日系人を対象とした行政事務を取扱う任意団体である自治体「サンフアン村」が結成されました。その後 77 年 8 月 1 日法人格を取得して現名称に改称。行政区 7 区（西川、中央、富士、栄町、共励、ビクトル、大和）選出の理事を執行部とし、会員による会費負担金で運営されます。2015 年には入植 60 周年を迎えました。

移住地では日本文化が受けつがれています。どんな文化かということ、運動会と盆踊りです。ほかにもゲートボール、茶道をやっている人たちがいます。盆踊りにはラーメン、焼き鳥、すし、焼き肉などをうっています、サンフアンの皆さんはその日を楽しみにしています。

サンフアンには青年会というグループがあります、そのグループは日系の若い人たちが運営<sup>うんえい</sup>していて私はそのいちいんです。青年会は、何をするかということ、サンフアンの一年間の行事をまとめます。運送会、盆踊りなど色々な行事のよういをします。

最近では青年会の行事に来る人たちが少なくなっています。この先どうなるのかすごく心配です。

これから家族の紹介をしたいと思います、私はお父さん、お母さん、おばあちゃん、お兄さん、弟と暮らしています。お父さんは農協を経営しています。何を作っているかということ、米、大豆とトウモロコシです、お母さん、お兄さんと私でそのお手伝いをしています。弟は大学で勉強をしています。

農協はすごくたいへんな仕事です。うまくいく日もあれば、うまくいかない日もあります。私は小さいころからお父さんのせなかを見てそだったのですごく大変な仕事だとわかります。でもお父さんがそんな大変な仕事をあきらめずに頑張ってきてるのを見て心からそん

けいしています。この先は私が頑張ってお父さんを超えるような人になりたいと思っています。

最後になりますが、なぜ私が県費留学生としてきたのかを説明いたします。

私のお父さんは農協をしています。農協には多くの機械を使います。トラクター、トラック、ショベル、コンバインなどを使います。乗り物なので、メンテナンスやら整備する人が必要です。

そのため私は整備士の勉強をしたいと思います。でも一番のきっかけはトラクターやらコンバインが仕事中に壊れた時にすぐに対応出来たら時間や整備士を読んでお金もかからないと思ったからです。

この一年間頑張りたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

アルゼンチン福岡県人会  
杉野ニコラス

九州大学  
システム情報科学府

私は杉野ニコラスです。アルゼンチンのブエノスアイレス出身でアルゼンチン福岡県人会から来ました。今年の5月1日で28歳になりました。

私の家族は4人です。アルゼンチンのブエノスアイレスにお母さんとお父さんと妹と住んでいました。お父さんは二世、お母さんはアルゼンチン人ですから私はハーフです。父側のおじいちゃんとおばあちゃんは福岡の大牟田市出身ですが、戦後ブラジルに移民し、そして、パラグアイに移民しました。そこでお父さんは生まれて3歳ごろからアルゼンチンに引っ越ししました。お母さんはアルゼンチン人ですが、お母さんの父側のおじいちゃんはスペイン人で、父方のおばあちゃんはイタリア人です。母方のおじいちゃんは日本の沖縄で生まれ、色々な文化が混じりました。

おばあちゃんとおじいちゃんは、アルゼンチンの教育はパラグアイより安いし、いいと思っていました。アルゼンチンに着いた後で子供たちと花を作りました。大変な仕事だから家族は皆よく頑張りました。

一昨年 UTN 国立大学を卒業して、電子工学者になりました。大学でいろいろな開発をして、卒業論文で 3D Scanner (測域センサ) を作りました。そして、電子ドラムや自動イコライザーやオーディオアンプなど作りました。

大学に通いながら、8年前からある小さい会社で放送のソフトを開発していました。開発者として働いていたのですが、2回ラスヴェガスにセールスで出張しました。

今年私は九州大学のシステム情報科学研究所で研究をしています。九州大学の伊都キャンパスは寮から遠いですがとてもきれいで大きなところです。通学時間は長いので一週間に3回大学に行っています。行かない日は寮で研究できるので便利です。

研究以外にコンピュータービジョンとパターン認識と日本語の授業をとっています。特別なパターン認識のクラスは英語で受けているのでとても便利で全部わかります。

家族会の会員は県費留学生の私たちをいろいろな所に連れて行ってってくれています。たとえば、アビスパ福岡のサッカーチームの試合や福岡ソフトバンクホークスの野球試合や花見などのイベントです。

日本に来てから一番困ったことは、やはり日本語です。だから毎日勉強しています。そして、驚いたことは大学で授業中ほとんどの学生は寝ていることです。家族会の山崎さんが私のルーツである福岡の親戚に会うために連れて行ってくれたことにとても感動しました。

学校で授業は興味深いし、研究室の人は親切なので学校生活は楽しいです。日本語は難しいですが英語でクラスがあるから大丈夫です。まだ日本人の友達ができないことは悲しいけどほかの県費留学生と仲良くしているのでうれしいです。

この一年間の目標は自分のルーツを深め、文化に慣れ、自分の日本語をもっとじょうたつしたいです。日本のコンピュータービジョンやパターン認識の技術はアルゼンチンのよりもっと進んでいると思いますので、この技術をたくさん学んで、国に帰ってからもこれをひろめたいです。

ペルー福岡県人会

シバタ サウリルイス アンヘル コイチ

九州産業大学  
造形短期大学部

私の名前は柴田耕一、30歳です。私はペルー出身です。

私の祖父母は日本人です。だから父親は日系人、そして私の母はペルー人でした。

私が2歳の時に父親は出稼ぎの為に日本に来ました、それから母親は5歳の時に亡くなり、その後は3人の叔母（私の父の姉妹）と一緒に暮らしはじめました。父は日本で働き続け2009年に父とは違う工場で働きにきました。

私の家族を助けるために日本に来ました。景気が良くなかった為、うまくいかなかったのでペルーに戻りました。ペルーに帰国した時に、私は何をすべきかについて考える必要がありました。そして私はいろいろなことをしました。例えばウェイター、料理人、ハウスクリーナーとして働きました。色々な所で働いた後にグラフィックデザインを勉強し始めました。キャリアは非常にうまくいきました。私は昇進のトップポジションに行きました。

グラフィックデザイナーとして働き始めた最初の会社ではとても良い同僚と上司に恵まれ多くのことを学びました。後に私は独立してフリーランスとしてしばらく働きました。しばらくして、私は会社に戻りデザインの責任者として何人もの部下を管理する方法について多くのことを学びそれは非常に良い経験でした。

私は何年も前からペルー福岡県人会に所属しています。昨年、青少年委員会の委員長を務めたので、県費留学生として日本に来るのは良い機会だと県人会の人達に言われました。

私はペルーの日系歌手協会のPROと呼ばれるカテゴリーにも参加しています。ペルーでさまざまな日系人の植民地の中のイベントに参加しました。異なるスタイルの歌を歌いました。例えばバラード、ロック、J-POP、演歌です。

最後になりましたが私は子供のころから野球をしています。通っていた大学のチームで10年以上プレーし、さらにペルー代表チームでもプレーしました。

数年前、県人会の人達は私にこの県費留学に応募するように言いました。しかし仕事の理由と個人的な目的のために、それをしないことに決めました。私が30歳になった時、私はまた機会を与えられ、その時より多くの仕事、経済的そして個人的な安定性を持っていました。それで私は応募をすることに同意しました。

日本に到着したとき、私にとって難しいのは日本語でのコミュニケーション、交通手段および生活費だと想像していました。しかし、私はこれに素早く順応して生活するようになりました。

大学に着いたとき、私は授業を日本人の学生達と分かち合うことが本当に好きで、そして他の学生達が私のグラフィックデザイナーとしての作品を見て驚いてくれた事がとても嬉しかったです。彼らはまだ学んでいる途中ですが、私は数年前に卒業し、何年も前に働いているからです。

今通っている九州産業大学の野球チームの練習に参加させてもらえた事にも驚きました。ペルーと比べるとレベルがはるかに高いですが、それでも私は彼らに追いつくために最善を尽くします。

九州産業大学の先生、学生、国際センター、野球コーチ、皆が私をサポートしてくれる事にとっても感謝しています。

今年の私の目標は、より多くのデザイントレンドを知ること、日本のデザイン教育システムを知ること、職業教育がどのようなものであるかを見ること、教師から色々学ぶ事、そして日本でのグラフィックデザイナーの仕事を知ることです。そしてペルーに帰国後、私がここで学んだことを応用し、野球について教えるために訓練を考え改善することがしたいです、例えば：テクニク、ゲームシステム、戦略などです。

最後に、日本の文化、生活、習慣について学び、ペルーに戻ってコミュニティと共有します。

メキシコ福岡県人会  
寺本 飯田 利生 アルツーク

福岡調理師専門学校  
調理師本科

福岡に来てから今日までのこと

はじめまして、メキシコから来た、寺本飯田利生アルツークと申します。年齢は二十六歳で、日系4世です。母方の祖父と母は、福岡県出身であるため、福岡にルーツがあります。私は、今までメキシコで、調理について学んできました。そのため、メキシコではカフェでマネージャーをしています。私が、今回福岡に滞在している際の目標としては、メキシコに帰った時に生かすことができるような日本食についての知識と技能を身に付けることです。多くの日本食を実際に食べて味を知り、その新しい味を作れるようになりたいです。また、それだけではなく、やったことのないことに挑戦したり、新しい友達を作ったりしたいとも思っています。

私は、5年前、大阪大学に留学生として一年間、日本語と日本文化を勉強しました。この経験は、私にとって、とてもよい経験となりました。日本で学ぶことができるのは人生で一回だけだと思っていたため、現在日本に長期間滞在しながらまた学べるという環境は、本当にありがたいことであり、いまだに信じられないです。

日本に来る前は、店の従業員へのトレーニングや新メニューの開発、また、1年間メキシコを離れることになるため、毎日友達や家族と食事をしたり、話をしたりして過ごしました。するとあっという間に2日間前になってしまい、お土産や服などを購入しに行き、荷物の準備を始めたので、すごく忙しかったです。

3月31日メキシコを出発しました。日本までの道のりはとても長く長時間フライトは初めてだったため、おしりと体中が痛くなり、とても疲れしました。そのようなときに、フランスで県費留学生と出会い、福岡にルーツを持つ仲間に出会えたことをうれしく思ったためか、だんだん疲れがとれたような気がしました。県費留学生とは、最初の時はあんまり話さなかったけど、少しずつ会話が增え、仲良くなりました。日本へ着き、時差ぼけが治らないまま、イベントに参加したので少しきつかったです。以前、兄と一緒に、寮に一泊したことがあるので、寮のイメージはありましたが、実際住んでみると住みやすく、イメージは変わりました。

現在、私が通っている専門学校は、福岡調理師専門学校です。初めて学校に行った時、私の日本語は下手なので、授業の理解ができるか不安な気持ちと、どんな人に出会うことができるのだろうかという緊張の気持ちでいっぱいでした。しかし、専門学校の友達と先生は、優しく接してくれてすぐに生活に慣れることができました。授業は、すごく難しくて分からないことが多いけれど、毎日楽しく学校生活を送れているので、楽しんで学校に行っています。一番好きな授業は実習です。毎回、新しいことを学んだり練習したりしています。

私にとって、県費留学生と一緒に晩御飯を作ったり、映画を見たりする時間はとても心が安らぐ時間であり、その時間が好きです。また、今年の二月にメキシコに来ていた福岡の学



生たちと日本で再会し、食事やカフェに行ったりお花見をしたりしたことも、本当に楽しかったです。メキシコに来た学生や県費留学生ともこれから思い出をたくさん作っていきたいです。

今日本に来て二ヶ月たちましたが、終わってほしくないと思うほど日本での毎日を楽しんでいます。最後になりましたが、私に県費留学生として福岡で学ぶチャンスをくださった方々に心から感謝しながら、この留学を価値のあるものにできるよう大切にしていきたいと考えています。

初めましてよろしくお願ひいたします。私の名前は堀大志です。アメリカ合衆国のカリフォルニア州からきました。日本に着いてからとても貴重な経験しています。これから日本に住んで色々な経験を経て前進することがとても楽しみです。他の県費留学生と簡単に仲良しになって嬉しいのでこれからも九人で一生懸命に勉強をしながら成長します。

私のお父さんは1989年に日本からアメリカに引っ越しました。お母さんは1990年に台湾からアメリカに引っ越して、そしてオクラホマ州の大学でお父さんと出会い付き合い始めました。結婚をした後に両親は二人でカリフォルニア州で住み始めました。1994年に私が生まれ、更に1996年に妹が生まれ、そして1998年に弟が生まれました。今でもカリフォルニア州の南方にずっと家族が住んでおります。

二十歳になって2015年に家から出て北カリフォルニアにあるUCDAVISという大学に行きました。両親の家から805キロぐらい離れている大学まで運転して行きました。かなり遠かったです。大学で本気で勉強をしたり、遊んだり、友達をたくさん作ってとっても素晴らしい経験でした。それから2018年に大学で学んでいた自然環境と地理情報システムを卒業しました。

子どもの時から大学に通い始めるまで、毎年、福岡に住んでる親戚に会う為によく来ました。ですから、日本での生活がどうなるか少し想像がつかしました。日本の親戚は福岡市の出身なので色んなところに連れていってもらいました。たくさん食べてそして楽しみました。だから福岡に来た時に自分の生活についてあまり心配をしていなかったです。

福岡に県移住者子弟留学生として来られる事を南カリフォルニア福岡県人会の皆様には本当に感謝しています。県費留学生になれる事はとても素晴らしい機会ですので自分の未来の為にいい経験になると思っております。去年に大学を卒業した後にこの留学制度について聞いた時は好機だと思ひとても貴重な機会だと分かったのでこの一年間に心を込めて頑張ります。

日本は本当に素晴らしい国ですけどアメリカと比べたらけっこううがちがっています。例えば日本人はもっと礼儀正しいです。いつでもどこでも皆さんが礼儀を持って行動しています。アメリカではそんなの風習がなくそして母国での生活は日本と比べたらかなり危ないです。私は日本人みたいに礼儀を持って行動して、そして人間として成長して学びたいです。

日本には何度も来ていましたが福岡に来る前は海外に住んだ事が無かったのでどうなるか緊張していました。知り合いは親戚だけで友達は一人もいなかったの心配しました。しかし、来る前に改めて考え日本が大好きなので心が落ち着いて、来る覚悟ができました。両親が幼い時に毎年私たち兄弟三人を日本に送っていたのは留学の準備の為だと思ひました。だけど今は大人になったので違う経験になるとわかっています。母国に帰ったら日本語を使え

る仕事を探したいです。だからこの一年間は一生懸命に日本語の勉強をして、日本人の先生、先輩、友達などとの関係を深めたいです。

これからも来年の3月まで頑張ります！どうもありがとうございました。残り10か月間よろしく願いたします。